

第1学年 国語科学習指導案

指導者 1組 伊藤 眞由美【公開授業Ⅰ】
男子20名 女子13名 計33名

- 1 単元名 大すきがわかるほんをよみ、『大すきしょうかいカード』でつたえよう
教材名 「ずうっと、ずっと大すきだよ」(光村図書 1年下)

2 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、これまでの文学的文章の学習において、設定(登場人物、時、場所、中心人物)を確かめたり、場面の様子や登場人物について挿絵や文を手掛かりに想像を広げながら読みだりしてきた。登場人物の様子や気持ちを交流したり、動作化や音読を通して登場人物の気持ちに寄り添ったりすることで、読みを深めることができるようになってきている。また、その学習を生かし、音読発表会を中心とした言語活動を設定し学習を進めてきたことで、音読をするときの声の大きさや読み方を少しずつ意識することができるようになってきている。

読書を好む児童は多いが、内容の理解には個人差が見られる。そこで、物語の読み聞かせを聞いたり友達と同じ本を読んだりし、内容や感想を交流することで、想像を広げ理解を深め読書の楽しさを味わうことができると考える。

(2) 教材について

第1学年及び第2学年の「C読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」ことである。本学習材は、語り手である中心人物「ぼく」と愛犬エルフの成長や老いて死んでいくエルフを最後まで見守り続けた「ぼく」との心の絆を描いた作品である。また、挿絵から「ぼく」とエルフの交流の様子やエルフをどんなに大切に思っていたかを感じることができる。更に、エルフを愛し続ける「ぼく」の心情を中心にして、場面の様子や登場人物の行動などについて、想像を広げながら読み、中心人物の「ぼく」がエルフのことをどんなに大好きだったかを感じ取ることができる学習材である。中心人物の「ぼく」のエルフに対する大好きを探しながら読み進める学習をきっかけとし、物語に興味をもち、読書の楽しさを味わいながら進んで読書に取り組み、友達と交流したり本を紹介したりする活動もできると考える。

(3) 指導について

本単元で付けたい力は、「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力」「楽しんで読書をしようとする力」である。本単元の言語活動として、「読むこと」の言語活動例「本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと」を具体化し、題名に着目しながら登場人物の大好きという気持ちが分かる文をいくつか探し、『大すきしょうかいカード』で友達に紹介していくことを位置付ける。児童にとって心温まる本を読み、友達と内容や感想を交流していくことで読みを深めていくことができると考える。

そのために、まず、中心学習材では大まかな粗筋をとらえさせる。その後、「ぼく」とエルフについて、叙述や挿絵を基に「ぼく」のエルフに対する気持ちや行動を想像させ、「ぼく」の大好きという気持ちが表れているところを見付け、カードに文を書き抜かせたり、大好きが伝わる場面を自分の言葉で書いたりさせていく。毎時間書き溜めた中から、友達と交流をし、不思議に思う

ことや行動の意味が分からないところについて読みを深め、最終的に自分のお気に入りの場面はどこなのかを考えさせ、大好き紹介カードに書かせていく。第三次には、その学習を生かして補助学習材について、みんなで読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりし『大すきしょうかいカード』を書くことができるようにしていきたい。本単元の補助学習材として、登場人物の交流で心が温くなる本を準備し、並行読書として取り組ませる。それをきっかけとして主体的な読書活動へもつなげていきたい。

学習の振り返りをする時には『ぞうさんカード』を使い、今日の学習を通して「できたこと」「わかったこと」などの観点を示して振り返られるようにする。友達の頑張っていたところや良かったところなどにも気付けるように、視点を示していく。

本単元では交流活動を第二次（2～5時）と第三次（6～8時）に設定している。第二次では、中心人物「ぼく」のエルフに対する大好きという気持ちが表れているところはどこかを考え、同じところや違いに気付くことで考えを広めさせていくためにペアで交流させていく。後半では、疑問に思った叙述について考えさせるときにペアやグループで交流させる。自分の考えと根拠となる叙述はどこかを交流し友達の考えに気付いたり、それを聞いて、自分の考えを見直したりし考えを深めさせるために行う。第三次では、同じ絵本についてみんなで交流し、お気に入りの場面や文を『大すきしょうかいカード』に書いていく。本単元では、読みを深めていくために交流活動を行う。

3 単元の目標と評価規準

| | 単元の目標 | 評価規準 |
|-----------------|---|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | ○ 想像しながら読むことを楽しみ、いろいろな絵本に興味をもって読書しようとする。 | ○ 想像しながら読み、登場人物の大好きという気持ちが伝わる絵本に興味をもって読書をしている。 |
| 読む能力 | ◎ 場面の様子や登場人物の行動を基に、想像を広げながら読むことができる。 【読(1)ウ】 | ○ 場面の様子や登場人物の行動を基に、大好きだという気持ちが分かるところを見付けながら読んでいる。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | ○ 主語と述語の関係に注意することができる。 【伝国イ(カ)】 | ○ 主語と述語の関係に注意して、登場人物の会話や行動について読んでいる。 |

4 単元の指導計画と評価規準（全8時間）

| 時間 | 学習活動 | 評価規準 | 主な交流活動 |
|----|--|--|--|
| 1 | (1) 大好きという言葉の意味を考えたり、大好きという思いの経験を発表したりする。単元名と単元のゴール『大好き紹介カード』を知り、学習の見通しもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大好きという思いの経験を発表させ言葉の意味をつかんだり単元名と単元のゴールを知り、学習の見通しをもったりしている。 <p style="text-align: center;">【関・意・態】</p> | |
| 2 | (2) 題名や挿絵から物語の内容を予想したり読み聞かせを聞いたりして設定を確かめる。難語句について知り、おおまかにあらすじをつかむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定（時、場所、登場人物）やあらすじをとらえている。 <p style="text-align: center;">【読(1)ウ】</p> | |
| 3 | (3) エルフの紹介と元気なエルフの場面での「ぼく」のエルフに対する大好きという気持ちを想像する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の行動や挿絵を中心に「ぼく」のエルフが大好きだという気持ちや様子について、想像を広げながら読んでいる。 <p style="text-align: center;">【読(1)ウ】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアでどこから大好きが伝わってくるか交流する。 |
| 4 | (4) エルフが年老いていく場面やエルフの死と死後の場面での「ぼく」のエルフに対する大好きという気持ちを想像する。 | ↓ | |
| 5 | (5) 「エルフ、ずうっと、大好きだよ。」と言ってやった「ぼく」の気持ちを考える。 【1年1組公開授業Ⅰ】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ぼく」が「エルフ、ずうっと、大好きだよ。」と言ってあげるようになったことについて、叙述を基に考えている。 <p style="text-align: center;">【読(1)ウ】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人学びをしたことを基に、根拠となる叙述についてペアで交流する。 |
| 6 | (6) 絵本の読み聞かせを聞き、内容や設定について確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定（時、場所、登場人物）やあらすじをとらえている。 <p style="text-align: center;">【読(1)ウ】</p> | |
| 7 | (7) 読み聞かせを聞き、登場人物の大好きが分かるところや、その中のお気に入りの場面や文について交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の登場人物の大好きを見付けて交流したり文章を書き抜いたりしている。 <p style="text-align: center;">【読(1)ウ】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアでどこから大好きが伝わってくるか交流する。 |
| 8 | (8) 単元の振り返りをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本を読んだことや紹介カードを書いたことについて、学習を振り返る。 | |

5 本時の指導（5/8時間）

【1年1組公開授業Ⅰ】

(1) 目標

中心人物の気持ちについて、叙述を基に想像することができる。

(2) 本時の評価の観点と評価規準

| 観点 | 評価規準 | 概ね満足できる | 支援を要する児童への手立て |
|--|--------|---|---|
| 中心人物の行動から心情の変化をとらえ、叙述を基に変化した理由を想像している。 | 【読む能力】 | 「ぼく」は、エルフが年老いてきたときに、「ずうっと、大好きだよ。」と言ってあげていた理由について叙述を基に想像することができる。 (例)エルフが死んでしまうのではないかと思って自分の気持ちをエルフに伝えたかったから「ずうっと、大好きだよ。」と言ってあげるようになったと思う。エルフは、年をとって、獣医さんも何もできることはないと言ったから。 | 挿絵や叙述を掲示しておき、年老いたエルフの様子を考えさせたり、交流の時、友達の考えを聞いたりするようにさせる。 |

(3) 研究仮説に関わって

<学習課題の解決に向けて、子供たちが意欲的に話し合う交流の場や方法の工夫>

本時では、『「ずうっと、大好きだよ。」といてあげるようになったのはなぜか。』についての理由や根拠となる叙述を一人学びで探した後に、考えを確かめたり、思いつかないときには友達の考えを聞いて考えをもったりさせるためにペア交流を行う。課題に向かう時には、それまでの「ぼく」の行動と比較させることで変化をつかませて疑問をもたせ、「なぜそのようにしたのか。」の理由を意欲的に考えることができるようにしていきたい。また、交流を通して、年老いていくエルフに、言葉で「ずうっと、大好きだよ。」と伝えることでエルフに自分の気持ちを分かってもらいたかったということにも気付かせていきたい。

(4) 展開

| 段階 | 学 習 活 動 (○主な発問, ◇期待する児童の反応) | 指導上の留意点(・) 評価(□) 交流活動(☆) |
|--|---------------------------------------|--|
| 導入 5分 | ① 前時までの学習を想起する。 ② 本時の学習課題をつかむ。 | <ul style="list-style-type: none"> それぞれ、どの場面にも「ぼく」のエルフに対する大好きという行動があったことを振り返る。 「ぼく」の行動を振り返り、エルフが年老いてきたときに「ずうっと、大好きだよ。」と言ってあげるようになったことを確かめ、それは、なぜかという疑問をもたせ課題提示をする。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「ずうっと、大好きだよ。」といてあげるようになったのはなぜでしょう。 </div> | | |

| | | |
|---------------------------------------|--|---|
| | <p>③ 学習の見通しをもつ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を考えるときは、登場人物の行動や会話、挿絵に着目し、それを根拠にするということを確かめる。 ・ 学習課題を確認した後、学習の流れについて確かめる。 |
| <p>展 開 3 5 分</p> | <p>④ 学習材に対する考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エルフが、今までと変わってきたところを読んでみましょう。 ○ 一人学びをしましょう。 <p>○ ペアで考えを交流しましょう。</p> <p>⑤ なぜ「ぼく」は「ずうっと、大好きだよ。」と言ってあげるようになったのか、また、その考えの根拠を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合ったことを発表しましょう。 ◇ エルフは死んでしまうのではないかと思って心配したから、言ってあげたと思います。どうしてかという、獣医さんに連れて行ったけど、できることは何もないと言われたからです。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を意識させ音読の範囲を確認し、音読をさせる。 ・ なぜ、言ってあげるようになったのか考えさせ、考えをもたせてから活動に入るようにさせていく。 ・ 「ぼく」がなぜ「ずうっと、大好きだよ。」と言ってあげるようになったのか、シートに書かせ、根拠となるところにサイドラインを引かせる。 ・ 挿絵の表情にも着目させ、それを根拠にしてもよいこととする。 ・ 児童の実態から2～3人で交流させる。 ・ 自分の考えと、どこを根拠に考えたのかを自由に交流する。 ・ 理由と根拠を伝え合い、考えを広げさせる。 ・ 友達の考えと同じところや違うところに気付くようにさせる。 ・ 考えを一つにまとめるのではなく、友達の考えを知ることや、聞いて自分の考えを確かなものにするようにさせる。 <p>☆ 自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりし、同じところや違うところについて確かめ、一緒に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「死んでしまうかもしれない。病気になってしまうかもしれない。」など、考えが出されたら、そんな時に、なぜ、言ってあげるのか深く考えさせ、エルフに自分の気持ちを伝えなかった「ぼく」のことをつかませるようにする。 |

| | | |
|-------------|--|---|
| | <p>◇ エルフが、病気になってしまうのではないかと思ったからです。どうしてかという、エルフは寝ていることが多くなって、散歩を嫌がるようになったからです。</p> <p>◇ エルフが生きているうちに、自分の気持ちを伝えなかったからです。どうしてかという、エルフは寝ていることが多くなってきたので、死んでしまったら言うてあげることができないからです。</p> <p>⑤ 自分の考えを整理する。</p> <p>○ 自分で考えたことや友達の発表を聞いたりしたことを基に課題に対する考えをシートにまとめましょう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> なぜ言うてあげるようになったのか思いつかないときは、叙述からエルフの様子をとらえさせてから考えるようにさせる。 <p>□ 「ずうっと、大好きだよ。」と言うようになった理由とその根拠を書くことができる。(シート)</p> |
| <p>終末5分</p> | <p>⑥ 本時を振り返る。</p> <p>○ 今日の学習で「分かったこと」や「できたこと」を書きましょう。</p> <p>⑦ 次時の学習について確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 振り返りではぞうさんカードを使い、「分かったぞう」や「できたぞう」の観点を示し、自分ができたことや友達と交流して良かったことをシートに書かせる。 振り返りを書いたら、隣同士で聞き合い良く書けていた友達を紹介する。 |

(5) 板書計画

エルフがしんでしまうかもしれないとおもったから、ぼくのきもちをわかってほしいとおもった。
じゆういさんにもできることはなにもなかったから。

エルフがびょうきになるかもしれない

エルフがしんでしまうかもしれない

根拠となる叙述

根拠となる叙述

根拠となる叙述

根拠となる叙述

● したこと・いったこと

きもちをかんがえるときに、きをつけること

ずうっと、ずっと大好きだよ

㊦ 「ずうっと、大好きだよ。」と書いてやるようになったのはなぜでしょう。